

中国携帯電話機産業の調査を実施

- 生産・販売ともに中国国内メーカーが躍進！ -

中国国内販売トップは波導、2位もTCL、ノキアは3位に（2004年見込）

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)はこのほど、2003年末に加入者総数が2億6,900万人となり、成長を続ける中国の携帯電話市場と参入企業の最新動向を調査し、その結果を報告書「2004年 中国携帯電話機産業の展望」にまとめた。

調査結果の概要

< 2004年(見込) >

1. 携帯電話機国内市場は1億500万台

2003年の国内販売台数は9,924万台、2004年は1億の大台を超え1億500万台に達すると見込まれる。2005年には3Gがスタートすると予測され、2006年は前年比で20%近い増加の1億3,000万台の販売が予測される。

2. 国内販売トップは「波導」、2位「TCL」、3位「NOKIA」、国内メーカーのシェアは70%に

2003年に「波導(BIRD)」、「王牌(TCL)」の2社が欧米勢を抜き1,2位となった。2004年もこの傾向が続くとみられる。2004年の国内販売トップは「波導(BIRD)」13%で、以下「王牌(TCL)」11%、「諾基亜(NOKIA)」10%、「康佳(KONKA)」、「摩托羅拉(MOTOROLA)」の順になると見込まれる。国内メーカーの躍進はめざましく、2003年には55%と半分を超え、2004年には70%に達すると見込まれる。日系メーカーでは、SONY-ERICSSONは輸出が中心であり、PANASONICが12位に入るとどまっている。

3. カラーディスプレイ機が84%、デジタルカメラ付機が20%超

中国市場では2003年前半から急速にカラーディスプレイ機の品揃えが増えた。国内市場で出回る製品は、下半期には80%がカラーディスプレイ機となり、年間では75%を超えた。2004年は84%がカラーディスプレイ機になると見込まれる。モノクロディスプレイ機はローエンド需要市場に限定される。

デジタルカメラ付機はまだ高価で2003年は普及が始まったばかりで1割に満たない。2004年以降はコストダウンが進み国内メーカーの品揃えも増え、急増し始め20%以上がデジタルカメラ付機になると見込まれる。

4. 生産台数、国内企業の比率は32%

2002年より、中国国内メーカーは急速に成長し、技術面においても目覚ましい進展を遂げている。すでに第2世代端末の基本的構造設計、アプリケーション・ソフトウェア開発、無線周波数モジュール設計を把握しており、量産能力も備えている。2003年に発売された新型携帯電話機80タイプの80%以上の外観、機能が中国国内メーカー独自の設計となっている。そのため2002年から2003年にかけて、中国国内ブランドの携帯電話機が生産台数が急速に増加し、外資企業が生産台数の伸びは緩やかであった。しかし、2005年に3G市場がスタートすると、外資企業は、その核心技術の優位性により、急速に生産台数を伸ばしていくと予測される。

5. 波導（8%）、TCL（7%）など国内勢の生産シェアが上昇 生産台数トップはNOKIA（20%）

2003年の携帯電話機生産上位5社は、北京諾基亞移動通信有限公司（NOKIA）、摩托羅拉（中国）有限公司（MOTOROLA）、寧波波導股 有限公司（BIRD）、上海西門子移動通信有限公司（SIEMENS）、TCL 移動通信股 有限公司（TCL）の順となった。北京諾基亞移動通信有限公司（NOKIA）、摩托羅拉（中国）有限公司（MOTOROLA）、上海西門子移動通信有限公司（SIEMENS）の外資企業のシェアが低下し、寧波波導股 有限公司（BIRD）、TCL 移動通信股 有限公司（TCL）の国内勢のシェアが上昇している。日本勢では、索尼愛立信移動通信（中国）有限公司（SONY-ERICSSON）が8位に、北京松下通信設備有限公司（PANASONIC）が12位にかろうじて顔を出しているが、欧米勢に比べ出遅れている。2004年も、中国勢の躍進が続くが、NOKIA、SIEMENSの外資企業も巻き返しを見せると予測される。2003年に中国政府より正式に生産ライセンスを取得した三星（SAMSUNG）も大幅にシェアを上昇させている。

6. PHS 2,000万人の加入者増、大都市の市場開放で50%以上の成長

通話料金が安いことに加え、3G携帯電話サービスの遅れや北京市、上海近郊など大都市や大都市近郊で市場が開放されたことなどにより、2003年の加入者総数は約2,200万人増加し3,510万人となった。2004年も上海市での市場開放や3G携帯電話サービスの2005年へのずれ込みなどの要因もあり2,000万人近く増加し5,500万人に達すると見込まれる。ただし、3Gの普及が国家政策となっていることから、2006年以降は伸びが鈍化すると予測される。

< 2006年（予測） >

1. 携帯電話機生産台数は2億1,800万台（2003年比124%）

2003年の中国国内通信業の投資額は前年比6.4%増の2,246.4億元に達した。

中国の携帯電話機の生産台数は全世界の1/3に達し、販売台数も世界の約1/5となった。中国情報産業部の統計によると、2003年1月～12月における、中国国内での携帯電話機（GSM、GPRSとCDMA）の生産台数は1億7,600万台となり、中国は世界最大の携帯電話機生産・販売国となった。

2004年の生産台数も900万台近く増加し、1億8,500万台に達するとみられる。2005年には、中国の3G市場がスタートすると予想され、携帯電話のモデル・チェンジが始まり、生産台数は急速に伸びる。2006年には2億台を超え、2億1,800万台に達すると予測される。

2. 輸出・国内販売ともに1億台超

世界の携帯電話の生産基地であるだけに、輸出比率も高く2004年は55%と見込まれる。輸出・国内出荷ともに順調に伸びるとみられ、2006年には輸出・国内出荷ともに1億台を突破する。

< 調査の背景 >

中国の携帯電話加入者総数は2003年末には2億6,900万人（前年末より6,200万人増）を超えた。2004年も5,000万人以上の増加が見込まれ、2004年末には3億2,000万人に達するとみられる。2002年以降はPHSのサービスが地方だけでなく都市部でも急速な伸びを示し、2003年の加入者総数は3,500万人となり携帯電話の市場にも少なからず影響を与えている。

中国国内市場の携帯電話のサービスはGPRSとCDMAのサービスが2002年に始まり、2003年春にはCDMA-1Xのサービスも始まり徐々に高機能化している。第3世代携帯電話のサービスは当初2004年には登場すると見られていたが、商用サービスの開始は2005年以降になるとみられる。このため国内市場では方式別ではGPRS、CDMA-1X及びPHSの競争が激しくなる。

中国での携帯電話機生産が急増している背景には、中国国内の市場の急拡大とともに、外資企業が中国で生産をして輸出をする台数が増えていることが挙げられる。一方、中国国内市場の中で国内メーカーのシェアが高まっており、2003年はついに国内メーカーのシェアが50%を超え、逆に外資大手メーカーのシェアが大幅に落ち込んだ。

こうした状況を踏まえ、本調査レポートでは、中国携帯電話機の需要の伸びと、携帯電話機の中国国内での生産の拡大見通し、及び部品メーカーの中国国内での供給状況を分析した。

< 調査対象 >

携帯電話機 GSM、GPRS、CDMA、CDMA - 1X、第3世代
キコンポーネント プリント配線基板、高周波部品、携帯電話機用LCD、携帯電話機用電池、チップセット

< 調査方法 >

関係各機関の統計、推定をもとに、中聯富士経済咨询有限公司調査員による主要企業への取材

< 調査対象企業 >

携帯電話事業者：中国移动通信集团公司 中国聯合通信有限公司

携帯電話機メーカー事例

外資企業：NOKIA、MOTOROLA、SIEMENS、SONY-ERICSSON、SAMSUNG

国内企業：寧波波導股 有限公司(波導) TCL 移動通信股 有限公司(TCL) 康佳通信科技有限公司(康佳) 中国科健股 有限公司(科健) 広州南方高科有限公司(南方高科) 熊猫電子集团有限公司(熊猫) 北京首信集团(首信) 東方通信股 有限公司(東通) 中電通信科技有限責任公司(中電) 聯想移動通信技術有限公司(聯想) 深 市中興通信股 有限公司(中興)

P H S：UTスターコム通信有限公司、深 市中興通信股 有限公司

中聯富士経済咨询有限公司

設立 平成6年(1994年)1月1日

所在地 中国北京市東城区東長安街33号(北京飯店6301号室) 電話：86-106(522)2966 FAX：86-106(522)0145

資料タイトル：「2004年 中国携帯電話機産業の展望」

体 裁：A4判 256頁

価 格：100,000円(税込み105,000円)

調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部 海外開発グループ

TEL:03-3664-5821(代) FAX:03-3661-9514

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL：<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>